



デジタル教材を導入したいが、どうすればいい？  
コストもスキルもハードルが高い…、と  
お考えの先生方に！

採用校に  
聞きました！

# デジタル教科書導入・活用

## 東奔西走記 Vol.4

鳳凰高等学校 看護学科統括部長 大江 伸吾



### デジタル教科書導入前後の問題点

鹿児島県の鳳凰高等学校の大江と申します。デジタル看護教科書®の採用校という立場で、デジタル教科書導入前後の状況などを、実体験に基づいてご紹介しております。

さて、今回は導入前に想定していた懸念と、導入後の問題点についてご紹介いたします。

### 導入前に想定していた懸念

教職員の大半は授業中の目的外使用を心配していました。本校は校舎内でWi-Fiが利用でき、学生のタブレットはインターネットに接続できる状態にあります。そのため、授業とは関係のないサイトの閲覧やSNSアプリ、ゲームなどの利用が懸念されていました。導入検討時の会議では、生徒に授業への興味・関心を持たせ、主体的に取り組んでもらえるよう授業内容を工夫したり、生徒に顔を上げさせる投げかけを増やしたり、机間巡視を心掛けたり…と様々な提案がありました。さらに、解決策の一つとして動画や視覚教材の利用という意見が多かったため、各教室への大型モニターを準備することにしました。Apple TV※1等の機器によって、生徒・教職員のタブレットの画面をモニターへ表示させることも可能になり、大型モニター活用の可能性は大きく広がりました。たとえば、モニター

を活用すれば、1人の生徒のノートやプリント、演習時に撮影した看護手技の動画などを、他の生徒全員と共有することができます。生徒間でAirDropを用いて共有することもあります。モニターに提示すれば、教員が生徒全員に対して説明できるようになり、便利です。

また、そもそもデジタルデバイスの目的外での使用という心配は、従来の座学の授業でも尽きないものです。デジタル教科書を導入するからではなく、生徒のやる気や能力を引き出すという本来の目的のために、視覚教材や大型モニターを利用してこうという結論に至りました。そして、その提案のほとんどが新学習指導要領（平成30年改訂）にも掲げられているアクティブラーニングやカリキュラムマネジメントの考え方と合致していたことも、デジタル教科書導入に向けた大きな後押しになりました。

※1 iPad等の画面をそのままモニターに映し出す「画面ミラーリング」などが行えます。



ご回覧



## メリットを最大限に活かす 一時代への対応一

実際にデジタル教科書を導入して、想定していた問題が全く起こらないわけではありませんが、学内の情報管理部と協力してタブレットの使用規定を作成したり、適宜、生徒へリテラシー・モラル教育を実施したりしながら事なきを得ております。たとえば、入学時にはタブレットの使用に関して1時間、教科書の操作方法に関して1時間の説明<sup>※2</sup>を実施しています。また、各学期末にはその間に発生した事例を紹介し、注意・指導する時間を設けています。時代の流れを鑑みても、これからの教育現場においてタブレットなどの情報機器の活用は不可欠と考えられます。したがって、それを制限するのではなく、活用方法を教えたり、状況判断能力を養ったりする方向性が重要になってくるのではないのでしょうか。

他には、線を引く・付箋を貼る等の手を動かす機会の減少による、記憶の定着を懸念する声がありました。確かに、紙と比較すると劣る部分もあると思われます。しかし、紙では限界のあったことやできなかったことが解決し、効率的かつ視覚的に学習できるメリットの方が大きいと判断して導入に至りました。このあたりの詳細は本稿のvol.2をご覧ください。

※2 メディカ出版が学校様へ訪問して説明会を実施しています。

## 導入後に感じた問題点

機械にトラブルはつきものですが、授業という限られた時間でのマシントラブルの対処には苦労しました。機器の扱いに慣れない導入当初は、教職員からモニターやプロジェクターとの接続がうまくい

かないとSOSをいただくこともしばしばありました。機器の操作は教職員研修等で周知したつもりではおりましたが、特に、年配の先生方へは高いハードルだったようです。ただ、タブレットの操作もトラブル対処も、実際に触れる経験の中でしか学べないことが多々あります。導入から2年経った今ではほとんどの先生方が、タブレット片手に自信を持って教壇に立たれています。

生徒側のマシントラブルとしてはiPadのパスワードなどを忘れてログインできないことも多かったです。これについては、高校での低学年次には、ある程度の対処を覚悟しないとイケないかもしれません。また、端末自体の破損によるアプリの再インストールも数件ですが発生しています。本校では生徒の端末に保証契約をしておりましたので、問題はありませんでしたが、それでも新しい端末が届くまでの時間的ロスを防ぐため予備機を準備して対応しました。<sup>※3</sup>

このように、新しいものを導入するには多くの壁がありました。しかし、若い先生方を中心にさまざまな工夫や改善をしながら取り組んだ経験は、教職員の団結力を高める貴重なきっかけだったと実感しており、同時に職場で改革やチャレンジの気運が高まったことは思わぬ収穫でした。本校では新たな取り組みとしてビジネスチャットツールを導入しました。慣れるまでは時間がかかりましたが、今では教職員間の連絡をデータ配信という形式で行え、業務の効率化が実現できています。将来的には勤怠管理などにも利用したいと考えており、働き方改革の大きな原動力になっています。

※3 「デジタル ナーシング・グラフィカ」はiPadの故障時や機種変更時などに、無料でデータの引継ぎが行えます。

よりお役に立つ内容にしていくため、ご意見・ご感想がございましたらご自由にご記入いただき、FAXにてご送信ください

**FAX:06-6398-5081** ⚠ FAX番号のおかけ間違いにご注意ください

バックナンバーはこちら→<https://www.medica.co.jp/topcontents/dng/back-number.html>

お問い合わせ

MC 株式会社 **メディカ出版** 基礎教育営業課  
〒532-8588 大阪市淀川区宮原3-4-30 ニッセイ新大阪ビル16F

TEL : 06-6398-5039  
Mail : info-dng@medica.co.jp